

IV 地域貢獻活動

静岡市支援センター なごやか (静岡市指定管理者業務)

1 平成 30 年度 振り返りと動向

(1) 地域活動支援センター事業

①生活技術再獲得にむけて

日常生活の基本的技術の向上を図るための活動を、利用者様の声を聞きながら計画し実施する。

②障害の理解を進める活動の取り組み

施設で実施するプログラムやサークルは、利用者様自身が現在の障害を理解し、生活のしづらさを改善して、元気回復に繋がることを目的とする。

③個別支援の強化

本人を取り巻く背景を理解し、利用者様自身の地域生活や、就労生活等で現れてくる状況を受け止め、その改善を目指し利用者様と相談しながら利用者様自身が希望している生活が出来るように支援の強化を図る。

(評価)

上記方針の3点は前年度に続き、今年度も目標として取り組んだ。個別支援では利用者様を中心とした関わりを重視し、プログラム活動の展開においても、興味、意欲、関心を喚起できるような内容のなかに、生活技術の獲得や、余暇にまつわるものまで、本人らしいよりよい生活を見据えた働きかけを行っている。

今年度より開館時間、閉館時間が変更になり、それに伴い午前中のプログラム時間も変更になった。時間変更により、戸惑う事もあったようだが、生活リズムの改善に繋がる方や、自宅での過ごし方を考えるきっかけになった利用者様もいた。

(2) 一般相談支援事業

①地域会議・支援会議への積極的参加

地域会議では、事例を通して精神障害に対する理解が得られるよう、また関係機関と同行訪問を行う中で理解を深め本人のニーズに対応できるよう、お互いの連携を図った。

②ピアカウンセリングの取り組み

個別の相談対応、各座談会の開催に加え、自立支援協議会関連、家族会、講義等、様々な場で当事者としての意見を関係機関や支援者に伝える機会が増加した。

③地域移行支援事業の強化

地域移行支援部会ワーキンググループの開催とその中で課題解決に向けた取り組みを行った。また長期入院者様への支援では、それぞれの状況に合わせて工夫を重ねながら、希望する生活につながるよう継続して取り組んだ。

(1) 地域活動支援センター事業

平成30年度の参加者数が多かったプログラムは、日常生活スキルを学ぶ「やってみよう」、元気回復行動プランを作成する「WRAP」(WELLNESS RECOVERY ACTION PLAN = 元気回復行動プラン)、語りの場の「ピアタイム」、また「フットサル」「ウエルネスクラブ」「合同バレーボール」等、体を動かすプログラムへの参加が多くみられていた。「やってみよう」では、生活技術の再獲得や自身の生活を彩るものとして、「WRAP」やピアタイムでは自己理解を深めたり、自分の思いを話したり、相手の思いを聞く機会としてフットサル等スポーツを通じて互いに声を掛け合い協力すること、思いやりの精神、達成感等を感じられる機会ともなっていた様子であった。

日々の関わりや相談支援等から利用者様の理解に努め、関わる中で感じた利用者様、それぞれの課題（人付き合いの仕方、なごやかでの過ごし方、歯磨きや裁縫など生活技術の獲得等）に焦点を当て、相談、実践、振り返りをしながらその課題との向き合い方、乗り越え方と一緒に模索した。

プログラムでは運動系や、行事・イベント系への参加者が増えた。行事・イベントについては、例年平日に行っていたものを土曜日に行うなどして、普段仕事をしている利用者様の参加に繋がるきっかけを増やした。

また、外部の機関と共同で行う活動が活発になってきて、溝口病院デイケアと合同でソフトバレーを行う『ソフトバレー合同練習』、市内3支援センター合同で年2回実施する「3支援センター将棋オセロ交流会」等、幅広い交流の機会が、参加者の生き方の幅を広げ、潤いある社会生活の一助となっていると考える。

これらのことから、今後も利用者様が自分らしく地域で生活を送っていくよう留意・工夫しながら日々の関わりを大切にしていきたい。さらに、就労に繋がった利用者様の増加に伴い、職場での困りごとや働きながら生活する事の大変さに関する相談も増加した。個別の関わりによる生活のサポート等の相談や支援が増えた年度でもあった。

(2) 一般相談支援事業

葵区の委託事業所と連携し、課題として上げていた計画相談に関して、相談支援部会を立ち上げた。事務局会議や市連絡調整会議、ケア会議等への参加により、顔の見える関係が構築でき、早い段階から相談に繋がり介入することができている。今年度は、地域包括支援センターや保健福祉センター等の地域の支援機関との連携の機会が増え、よりご本人の地域生活に沿った場での支援や普及啓発を行うことができた。またピアスタッフも含めて振り返りを行い、ご本人のニーズに合った対応を提供した。

ピアスタッフの動きとして、昨年に続き、ワーキングピアを始めとした各座談会を開催し、共通の経験を持つ仲間が集まる場を通して、情報共有、共感、明日への意欲に繋がる機会を提供した。また市内の家族会に出席し、ご家族の思いを聴き、当事者からの考え方や思いを伝えた。こころのバリフリープロモーターフォローアップでは自身の経験を通して市民と精神保健福祉の理解、啓発、活動を広める機会を模索し、今年度は市民講演会に出演した。自立支援協議会各部会の取り組みへの参加、講義等、様々な場で当事者としての意見を関係機関支援者に伝える機会が増加した。

地域移行支援事業では、入院治療の段階から働き掛けを始め、医療機関スタッフと協力し、地域生活に興味が湧く関わりの工夫、また退院から地域生活への移行、地域生活の継続支援を行った。入院が長期間にわたる方への関わりでは、ご本人の気持ちの揺れがある中、ケア会議等で情報共有を行い、多職種で関わることで安心に繋がり進めていくことができた。

地域移行支援部会ワーキンググループでは関係機関と協力して地域移行・地域定着に関する課題解決に向けた取り組みを継続する中、連携する関係機関に広がりが出るとともに、新たな課題も見えてきた。

3 令和元年度 目標

(1) 地域活動支援センター事業

地域活動支援センターに来所される利用者様にはそれぞれ目標・目的がある。「生活リズムを整えたい」、「人と交流がしたい」、「活動に参加したい」、「就労がしたい」等、目標・目的は様々である。

利用者様がプログラムに参加したり、利用者様同士で話をしたり、スタッフと面談をしたり、個々の利用目的に応じて過ごし方を考えている。なごやかで主に活動するばかりではなく、次へのステップアップや、新たな活動の道へ幅を広げられるような場所にしていきたい。また「居場所」としての役割も大切にし、休息の場や、憩いの場になるようニーズに応じて過ごせるようスタッフも共に考え、一緒に活動をしていきたい。それには、利用者様の生活がより豊かなものとなるような、また自身の生活を見直すきっかけとなるようなプログラム活動を開拓させていく。

前年度に引き続き利用者様自身の高齢化率、ご家族の高齢化率も上がってきている。そのため、利用者様ご自身やご本人を取り巻く環境の変化にも対応していくけるよう準備をしていきたい。

20～30歳代の若年層の利用率が上がってきており、まだ見学相談も増加してきている。体験の段階から関わりを意識し、利用目的を確認しながら利用定着にも力を入れていきたい。

なごやかの利用者様は皆、得意なもの苦手なものはもちろん異なるとは思うが、その中でも特に人スキルに不安を抱える方も多い。「声が大きい」、「ルールが守られていない」等、苦手な利用者様同士が互いに反応し合う場面もあったため、S S Tや認知行動療法、W R A P等を用いながら、自分自身のこと、一緒に利用する相手のこと等考えるきっかけの場を設けたい。また、自分の想いを表現することが苦手な利用者様もいるため、そういった利用者様の声を拾う事や発言の場においても考えていきたい。

(2) 一般相談支援事業

地域包括支援センター、保健福祉センター等の各地域の支援者からの連絡が増加し、地域での支援ネットワークが広がっている。今後もその連携を活かし、支援が必要な人の利用につなげたい。今後も、日々の生活を穏やかに暮らせるように、困っていること、悩んでいることを丁寧に聞きだし、落ち着いた生活を送ることができるように、それぞれのできることを増やしていくように支援をしていく。

また、自立支援協議会の関連部会への参加協力の機会が増えている。積極的に参加し、協

力して地域課題の解決に向けた働きかけをし、暮らしやすい地域づくりに取り組みたい。主に以下、3点に重点を置いて取り組んでいきたい。

- ・各地域の支援機関と協力し、地域生活を支える体制を構築する
- ・3支援センターの連携強化により、支援の仕方を学び、利用者様への理解を深め、より良い支援を提供する
- ・静岡市全体で対象者を支えていく

平成30年度 なごやかにおける事業活動実績

(1) 地活の登録者・利用・活動実績件数

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
開所日数	74	74	73	71	292
登録者数	2	4	5	1	12
登録利用者 延数	1,486	1,338	1,260	1,008	5,092
体験利用者 延数	80	89	55	60	284
見学者数	17	18	16	13	64
相談支援数	1,827	1,578	1,226	1,188	5,819
上記ピアスタッフ対応件数	173	145	126	138	582
設備利用 ※1	258	302	115	80	755
行事参加 ※2	18	16	27	16	77
プログラム活動参加 ※3	325	243	290	241	1,099
サークル活動参加 ※4	320	277	248	160	1,005
団体利用 ※5	100	72	66	29	331
親の会支援 ※6	54	44	41	52	205
地域交流 ※7	0	0	376	0	376

単位：人

※1 館内設備の調理場、入浴、洗濯、乾燥、カラオケ等の利用

※2 自由参加の地域の季節行事、浅間神社初詣、静岡祭り等の参加

※3 なごやか各月活動：ゴーゴーエルネス、みんなで歌おう等

※4 なごやかサークル：オセロ、デッサン、リコーダー等

※5 団体利用：若草OB、ナイトサークル、ワーキングピア等

※6 のぞみ会、エーデルワイスの会

※7 地域交流まつり、障がい者将棋大会等

(2) 相談支援事業利用者・相談方法・支援内容

<障害分類別利用者>

単位：人

身体障害	重度心身	知的	精神	発達	高次機能	その他	計
2	0	32	594	23	5	47	703

<支援方法>

単位：件

訪問	来所相談	同行	電話相談	支援会議	関係機関	その他	計
54	369	12	1,525	12	367	8	2,347

<支援内容>

福祉サービス	障害症状	健康医療	不安解消	保育教育	家族人間	家計経済	生活技術
771(70)	32	329(17)	436(34)	3	282(9)	48	120(9)

単位：件

就労援助	社会・余暇	権利擁護	その他	年度計
258(81)	57(19)	1	9	2,346(239)

() 内はピア対応

(3) 地域移行推進事業・支援内容・連絡先

退院支援連絡会等	退院支援委員会等	ケースのとりまとめ	対象者ニーズ把握	家族との関係づくり	福祉サービス支援	経済問題解決支援	心理情緒支援
578	281	102	84	0	162	84	348

単位：件

対象者 家族支援	心理情緒 支援	障害理解 の支援	生活基盤 形成支援	対人関係 社会関係	居住獲得	事業説明	計
50	348	183	347	4	162	24	2,712

<担当者の支援活動内容>

単位：件

連絡会準備	支援会議参加	訪問	同行	面会面接	連絡調整	情報共有等	研修参加	計
441	247	148	232	365	485	571	11	2,500

<連携先> 対象事例 入院延べ 209名 退院延べ 217名

家族	専任相談員	相談事業所	福祉サービス事業所	医療機関PSW	医療機関Dr-Ns等	保健所・法律家	社会福祉協議会
48	298	257	128	702	196	0	17

単位：件

地域包括介護保険	家主・不動産	行政	民生委員等	その他	計
38	57	298	4	31	2,074

4 ケース支援連携先

(1) 公的機関

精神保健福祉課、各区障害者支援課、葵区生活支援課、子ども若者相談センター、地域リハビリ推進センター、静岡保護観察所、静岡家庭裁判所、清水警察署、ハローワーク

(2) 医療機関

溝口病院、静岡県立こころの医療センター、清水駿府病院、日本平病院、第一駿府病院、焼津病院、静岡てんかん神経医療センター、新清水クリニック、さざ波てんかん神経クリニック、城西神経内科クリニック、七色鍼灸接骨院、静岡県立総合病院、静岡赤十字病院、静清リハビリテーション病院

(3) 訪問看護事業所

スマイルリラ、有度の里、訪問看護ステーションしづおか

(4) 就労移行

リタリコワーカス静岡、ウェルビー、G-STEP

(5) 就労継続支援 A型

アウル、スマイルワーク長田オリーブ

(6) 就労継続支援 B型

ぱれっと、友の風、ルアナ、アスタス、どんぐり、やまっこ、すんぶ

(7) 生活介護

めるしい

(8) グループホーム

あおぞら、SESハウス

(9) 相談支援事業所

はーとばる、静岡市支援センターみらい、こころ（島田市）、障害者協会、障害者生活支援センター城東、コンパス北斗、就業・生活支援センターさつき、清水障害者サポートセンターそら、DanDan しづおか、リライフ、ベアプラン、橋本福祉事務所、ちむぐくる、みんなのセンター、ラニカイ、ラン、わらしな

(10) その他相談支援機関

静岡市社会福祉協議会、葵区地域福祉推進センター、法テラス、静岡障害者職業センター、静岡県障害者差別解消窓口、静岡市保護司会

(11) 地域包括支援センター

城西、長尾川、麻機千代田、藁科、安西番町

(12) 保健福祉センター

北部、藁科、城東

(13) 民生委員

西奈地区、北安東

(14) ヘルパー事業所

ヘルパーステーション静岡、ふたがしら、ゆうあい

(15) その他

利用者様の就労先、成年後見人・保佐人（司法書士法人つかさ他）、平和堂土地、静岡セキスイハイム不動産、アドバンハウス、萩田建装

5 就労支援事業

A型事業所・一般事業所等、なごやかより支援して就労した利用者様に対して、就労後も引き続き本人への定着支援を行い、事業担当者と支援を強化した。

6 その他の活動

(1) 家族教室活動

利用者様のご家族を対象に、なごやかの活動を理解してもらうとともに心理教育による育成、セルフグループの形成促進を目的に実施した。本年度6回開催 29名の出席者があった。

(2) 団体利用

・ナイトサークル	7回利用	20名	(当事者会)
・ワーキングピア	12回利用	68名	(タ)
・若草クラブ OB会	15回利用	60名	(タ)
・英会話	2回利用	5名	(タ)
・VACS - GELA 静岡	1回利用	5名	(タ)
・レフミン	3回利用	12名	(タ)
・のぞみ会	12回利用	84名	(家族の会)
・エーデルワイスの会	10回利用	78名	(タ)

(3) 座談会

就労者座談会、就労継続 A型座談会、もぐもぐたいむ（地域移行座談会）

(4) ボランティア活動

- ・古切手整理：重度心身障害者施設の収集した古切手の整理 隨時実施
- ・景観ボランティア：エリア周辺の花壇整備 週2回実施

(5) 地域交流活動

中部地区ソフトボール大会、フットサル東海大会

3支援センター将棋大会、障害者将棋オセロ大会、地域交流祭り

(6) 関係機関会議

<自立支援協議会関係>

静岡市障害者自立支援協議会、静岡市障害者相談支援全市連絡調整会議、
葵区障害者相談支援事務局会議・連絡調整会議、地域生活支援部会、
ヘルパープロジェクト、地域移行支援部会、地域移行支援部会ワーキンググループ

<その他関係機関会議>

日常生活自立支援事業関係連絡会議、生活保護精神障害者退院支援の担当者会議、
障がい者虐待事例検証会議、退院後支援マニュアルに基づく退院後支援体制整備のため
の事例検証会議、日本司法支援センター静岡地方事務所地方協議会

<3 支援センター関係>

3支援センター所長会議、3支援センター連絡会

<ピアサポーター関係>

静岡市ピアサポート連絡会、ピア交流会（島田・沼津）、ゆうやけ相談会、

こころのバリアフリーフォローアップ

(7) 協力関係

・しづおか精神障害者スポーツ推進協議会

(8) 講師派遣

・障害者職業生活相談員認定講習

(9) 実習受入れ

・YMCA 実習生（平成 30 年 9 月 1 日～10 日）

・東京福祉大学実習生（平成 30 年 11 月 1 日～11 月 21 日）

・静岡福祉大学実習生（平成 31 年 2 月 12 日～3 月 1 日）

・精神看護学の実習として、済生会看護学校、常葉大学健康科学部看護学科の両校学生を
平成 30 年 7 月 23 日～11 月 6 日の期間に合計 49 名を受け入れた

・市民成年後見講座受講生の実習を 7 名受け入れた

(10) その他

・JICA 日本国際協力機構視察・担当職員等（18 名）

・横内学区民生委員見学

特定相談支援事業所 リライフ

当事業所は、平成 26 年 11 月精神障害を持つひとの支援を目的とし、特定相談支援事業所として開設された。平成 24 年 4 月より始まった支援の取り組みとして計画相談支援を行っている。

計画相談とは

福祉サービス利用を希望するひと（以下、利用者様）から依頼を受け、適切に福祉サービスを利用するための援助である。

地域で暮らす精神障害を持つ利用者様の今後の生活への希望の聞き取り及び自宅訪問を行い、生活環境の確認・ニーズの把握に努め、利用者様と話し合いながら、利用者様の希望する生活の実現に向けて、ケアプランーサービス等利用計画を作成している。また、地域で暮らす利用者様を対象とした支援のみに留まらず、入院治療を受けている利用者様が地域に戻るための支援を行っている。サービス導入後は、関係機関との連絡及び利用者様宅を訪問し、サービス利用について定期的な見直し—モニタリングを行い、適切なサービスが提供されているか確認をし、安心して地域で暮らすための支援を行っている。

1 平成 30 年度 動向

平成 26 年 11 月より常勤 1 名、非常勤 1 名体制で計画相談支援事業を開始した。その後、職員配置に変動があり、平成 29 年 9 月より常勤 2 名体制となった。平成 30 年 1 月より常勤 1 名体制となった。平成 30 年 8 月より 1 名が増員され、常勤 2 名体制になり、現在に至る。平成 29 年度は 46 名の方から依頼を受けた。平成 30 年度は 39 名の方から依頼を受け、延べ 207 名の利用者登録がある。今年度の支援実施状況は、サービス等利用計画案の作成が 133 件、サービス等利用計画書の作成が 122 件、モニタリング件数が 260 件である。昨年度の支援実施状況は、計画案作成が 112 件、サービス等利用計画書作成が 111 件、モニタリング件数が 233 件と比較すると、全体的な増加が見られる。年度途中の増員ではあったが、より多くの方々へのサービスを提供が可能となったと考える。サービス種別としては、毎年度ごと、居宅家事援助の利用を希望される方の増加が見られ、昨年度の 59 件に比べ、今年度は 86 件と前年度比約 158 パーセント増となっている。また、少数ではあるが、これまで精神科領域では馴染みの薄かった生活介護や短期入所の利用希望者数の存在も特記すべきことであろう。入院期間の短縮化と介護者の高齢化との関連は否定できない。

2 平成 30 年度 総括

平成 29 年度は前年度から引き続き、支援技術の向上、より多くの利用者様への質の伴ったサービスの提供を目標に掲げた。途中、常勤 2 名体制から 1 名体制となり、支援員 1 名当たりの担当件数が大幅に増加したため、きめ細やかなサービスの質を保てなくなることが危惧されたが、8 月より常勤 1 名の増員があり、安堵した。また、関係機関からの協力により助けられることも多かった。同時に多くの関係機関、支援者の立場や専門性の違いにより支援の足並みを揃えることの難しさを感じた年でもあった。広い視野を持ち、それ

ぞれの専門性を理解しながら、利用者様を支援していく必要性を強く感じた。

3 平成 30 年度 目標・抱負

平成 30 年度も更なる支援技術の向上、より多くの利用者様への質の伴ったきめ細やかなサービスの提供を目指していきたい。ここ数年感じていることではあるが、障害を持つ方のご家族の高齢化、また利用者様ご本人の高齢化の進みを感じている。利用者様との何の前触れのない別れも経験した。事業所が開設され、5 年が経ち、これまで障害福祉サービスの利用者様が介護保険に移行していくケースも散見された。また、実践を重ねて、経験・知識を得る一方、利用者様の持つ力の限界を気付かぬうちに支援者が決めてしまい、利用者様の望む生活や気持ちが置き去りにしてしまいそうになる危機感を感じた。初心に立ち返り、計画相談支援の本質を見失わないよう心掛けたい。そして、総括でも触れたが、関係機関、支援者の立場や専門性を理解し、広い視野を持ち、支援を行っていく必要性も感じている。他の支援者様との良好な関係の構築も目標に加えたい。

○ 支援実施状況及び内訳

【サービス種別内訳】

	サービス等 利用計画案	就労 移行支援	就労継続 支援A型	就労継続 支援B型	居宅 家事援助	短期入所	共同生活 援助体験	共同生活 援助	生活介護	生活訓練	機能訓練	地域 定着支援	就労 定着支援
平成30年4月	8	0	1	1	5	0	1	0	0	0	0	0	0
5月	15	1	1	4	12	0	0	1	1	0	0	0	0
6月	8	0	1	1	8	0	1	0	0	0	0	0	0
7月	9	0	1	2	7	1	1	0	2	1	0	0	0
8月	6	1	1	1	4	0	1	0	0	0	0	0	0
9月	17	2	1	1	10	0	0	0	0	0	0	1	2
10月	12	2	0	3	8	1	0	0	3	0	0	0	0
11月	14	1	0	3	11	0	0	1	1	1	0	0	0
12月	8	1	0	0	3	0	0	2	0	0	0	1	1
平成31年1月	13	2	0	3	11	1	1	0	1	0	0	0	0
2月	10	3	2	1	3	2	0	0	0	0	0	0	0
3月	13	1	2	9	4	0	0	1	0	0	0	0	0
合計	133	14	10	29	86	5	5	5	8	2	0	2	3

	サービス等 利用計画	就労 移行支援	就労継続 支援A型	就労継続 支援B型	居宅 家事援助	短期入所	共同生活 援助体験	共同生活 援助	生活介護	生活訓練	機能訓練	地域 定着支援	就労 定着支援
平成30年4月	4	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
5月	8	0	1	1	6	0	1	0	0	0	0	0	0
6月	14	1	1	4	12	0	1	1	1	0	0	0	0
7月	7	0	1	1	7	0	0	0	0	0	0	0	0
8月	9	0	0	3	7	1	1	0	2	1	0	0	0
9月	7	1	2	1	4	0	1	0	0	0	0	0	0
10月	15	3	0	1	8	0	0	0	0	0	0	1	2
11月	13	2	0	2	7	1	1	1	2	0	0	0	0
12月	13	0	0	2	10	0	0	1	1	1	0	0	0
平成31年1月	6	2	0	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0
2月	15	3	1	3	12	1	0	0	1	0	0	0	0
3月	11	3	2	2	3	1	0	1	0	0	0	0	0
合計	122	12	10	21	82	4	5	4	7	2	0	1	2

	モニタリング	就労 移行支援	就労継続 支援A型	就労継続 支援B型	居宅 家事援助	短期入所	共同生活 援助体験	共同生活 援助	生活介護	生活訓練	機能訓練	地域 定着支援	就労 定着支援
平成30年4月	17	1	2	2	11	1	0	0	2	0	0	0	0
5月	27	2	4	6	14	0	0	3	1	1	0	0	0
6月	23	0	6	5	13	0	1	1	0	0	0	0	0
7月	23	1	4	7	12	1	2	0	2	1	0	0	0
8月	20	2	6	6	10	1	0	0	1	0	0	0	0
9月	17	2	3	2	10	0	1	0	1	0	0	0	0
10月	18	2	2	2	13	1	0	0	3	0	0	0	0
11月	27	1	4	8	19	0	1	3	2	1	0	0	0
12月	27	0	5	5	13	0	0	2	1	0	0	1	1
平成31年1月	25	2	4	8	13	1	0	1	2	0	0	0	1
2月	22	3	6	6	9	1	0	1	0	0	0	0	1
3月	14	0	1	4	10	0	0	1	0	0	0	0	1
合計	260	16	47	61	147	6	5	12	15	3	0	0	4

*注 同時に複数のサービスを利用する場合、または実際にはサービス利用に至らない場合があるため、必ずしもサービス種別内訳の合計と支援実施件数は一致しない。

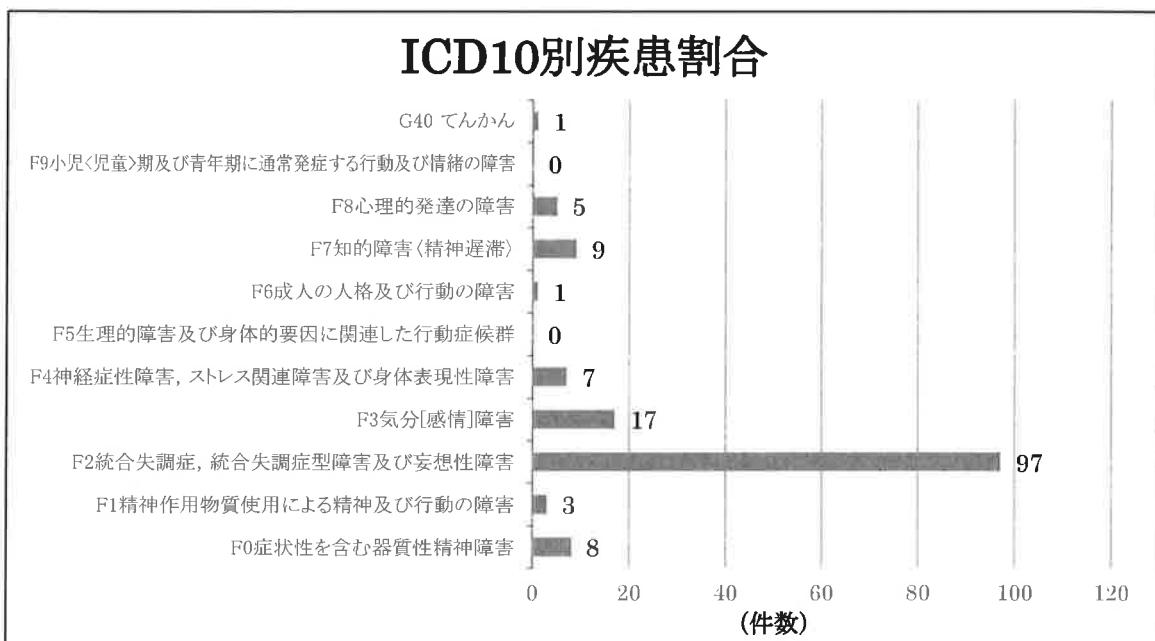
訪問看護ステーション スマイルリラ

基本理念

住み慣れた地域でその人らしく自由に生き生きと生活していくことを支え、見守り、共に考え続けます

看護方針

- (1) 安心・信頼関係のもと利用者様の自己決定を支援します。
- (2) 利用者様1人ひとりの思いを尊重し、個々の強みを活かした支援を提供します。
- (3) 看護師・作業療法士・精神保健福祉士など専門性を活かしたチームで支援します。
- (4) 医療・保健・福祉など、地域の様々な関係機関と連携して適切な支援を提供します。
- (5) 専門職として知識と技術の向上に努め、人とのつながりを大切にします。



1 利用者様の統計データ考察

当ステーションの利用者様においてはICD10における「F2」カテゴリーの方が65%と最も多く、昨年の60%よりも更に5%の増加である。これはかつて「F2」圏内の社会的入院が多くみられ、それらの利用者様が訪問看護を利用する事で退院促進につながり、現在でも訪問看護を利用し、地域で生活する事ができているデータである。

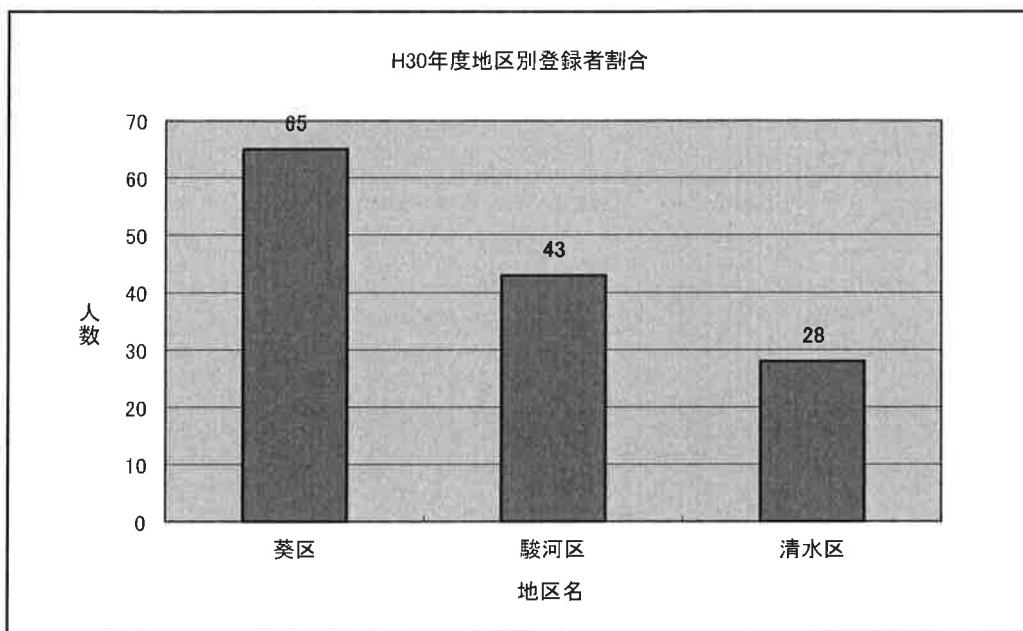
また、今年度の特徴として、入退院を繰り返しているケースが多く見られる。特に「F2」圏内の利用者様の再入院が特徴的で、退院後に再度訪問看護を利用する場合が多く、年に数回繰り返す方もいるのが現状である。これらは利用者様が地域生活継続するにあたってのストレス耐性の低さや、ご家族含めサポート力の低下など取り巻く環境も影響しているところである。

新規利用者様においても外来等からの訪問指示者が長年ご家族で支援していたが、ご家

族の加齢に伴い第3者の視点を入れたいという観点や、自立の第1歩の担い手となってほしい等の理由から訪問開始になる利用者様の疾患が「F2」圏内の利用者様が多いという事と推察される。

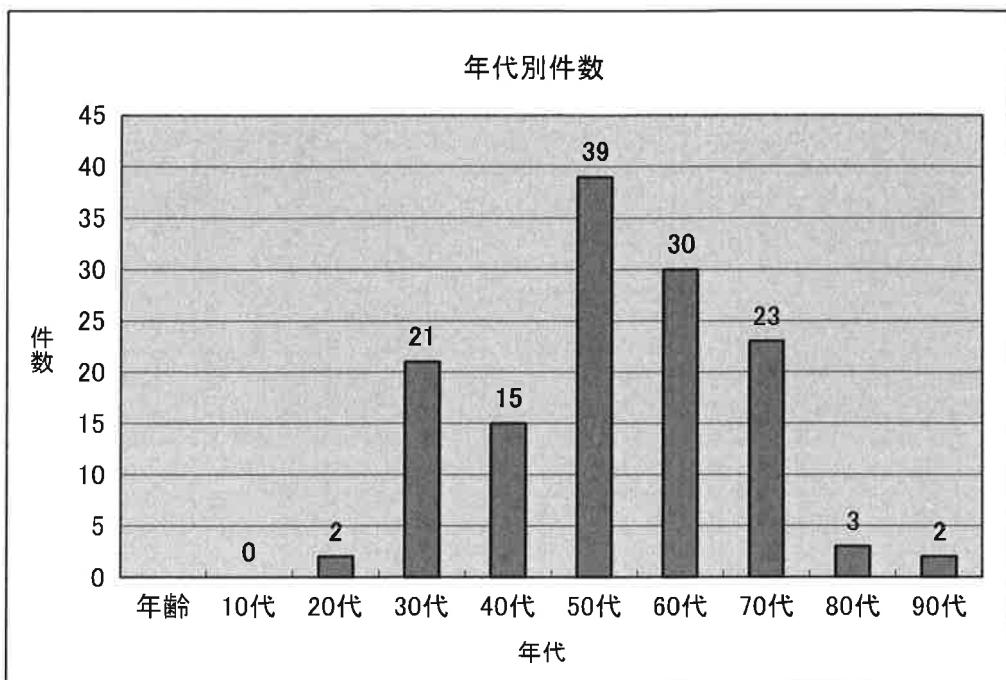
一方、「F0」圏内の利用者様の増加が予想されたが、昨年度同様の水準であった。その理由としては、特にBPSDの症状に伴い入院された方が、その後在宅ではなく入所施設へ移行したケースや、又、在宅で生活されている利用者様が認知症も認められるが、気分障害等の症状から疾患名として「F0」に該当しなかったケースも考えられる。

但し、高齢化社会を迎える認知症に伴うBPSDの症状等により、地域のケアマネジャー、地域包括支援センター等からの訪問看護依頼が今年度既に数件問い合わせがあり、地域包括支援センター、担当ケアマネジャーと連携して訪問看護導入に至ったケースもある。当ステーションも徐々に地域の社会資源として認知されつつある為、今後地域からの訪問看護依頼の増加が予想される。



地域別利用者割合の考察としては、昨年、一昨年と同様の傾向にある。特に葵区の瀬名方面、千代田地区、新静岡センター近郊、静岡鉄道沿線の利用者様が比較的多い。また、駿河区では南幹線沿い、登呂方面の利用者様が比較的に多く、受診においては利便性が悪い。清水区方面は国道1号線沿いや新清水駅周辺の利用者様が多く、逆に150号線沿いのエリアや、国道198号線近辺は利用者様が少ないのが特徴である。

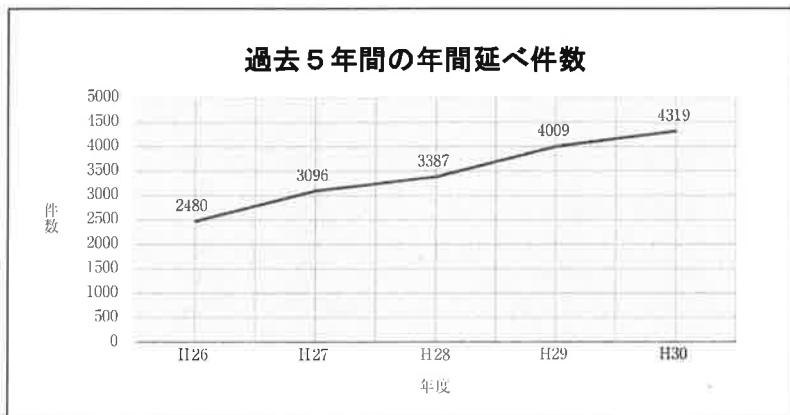
尚、最北東利用者様は、葵区産女、最北地区は葵区麻機地区、最西は駿河区用宗、最東部地区は清水区蒲原である。今後静岡市内のみならず、サテライトへいわから焼津、藤枝方面にまでエリア拡大が図れる様にしていきたい。



年代別件数の割合は50代、60代の利用者様が多い。これらは単身者で退院後に訪問看護導入されるケースや、同居されていたご家族が高齢になり、ご家族自身も要介護者等となるケースも増えてきた事で、食事支援、服薬支援等のサポート体制が不十分になり、訪問看護導入に至るという状況である。

70代の利用者様が昨年度よりも増加している事については、従来の利用者様の年齢が上がった事や、新規利用者様で特に「F0」、「F3」圏内の利用者様が増加したという事が要因の1つと考えられる。施設入所か在宅かという選択肢の中で今現在、在宅での生活を望まれる方が多く、それに伴い訪問看護にてサポートしていく事も特徴の1つと思われる。

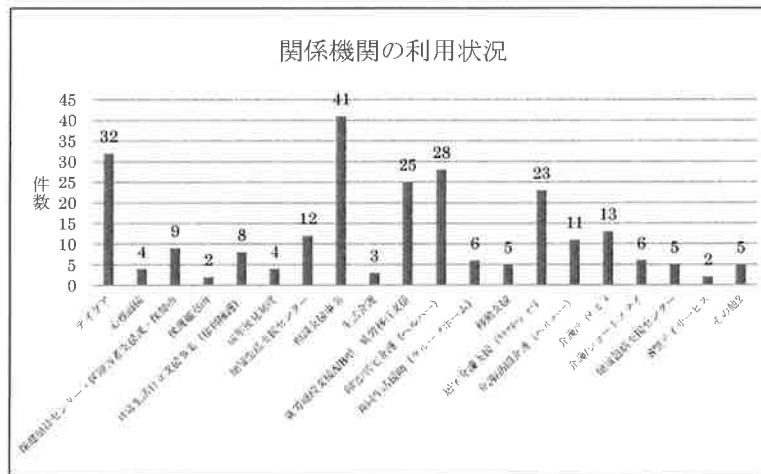
前述した高齢化問題は今後も増加傾向が予想される。それに伴い、各地域包括支援センター、担当ケアマネージャー、権利擁護担当者、各ヘルパー事業者等とより密に連携していく必要がある。



延べ件数の推移においては、過去5年間の推移から年々増加傾向にある。これは単に各利用者様の訪問看護の定着率、利用率の増加という事も然ることながら、より密なサー

ビスの提供が起因していると思われる。訪問開始当初や、定着困難な利用者様へ担当者が電話での促しや各関係機関と綿密に連携し関係作りをしていく中で、キャンセル者の減少に至ったり、新規の利用者様への継続的且つ、定期的な訪問へ繋げた事が要因と思われる。又、状態悪化時における臨時訪問、祝祭日を挟む場合の曜日、時間等変更する事で訪問の期間を空けずにサポートしてきた事も件数の増加に繋がったと考えられる。再入院される利用者様も退院後は訪問看護を導入する事で再入院を防止し、地域生活を継続するという事が年々増加してきた印象がある。

又、新規利用者様についても特に外部医療機関からの訪問看護希望もある。これらは直接、各クリニックからの相談ではなく、地域住民から地域包括支援センターへ相談され、その後当事業所へ訪問希望の問い合わせ、クリニックからの訪問指示にて新規利用者獲得というケースが特徴的である。在宅で生活する高齢者様が増加する中で、病態も、認知症に伴う BPSD により通所介護、デイサービスだけではサポートが不十分で、本人の生活が成り立ちにくくなり、その中で特に市内における、地域包括支援センターをはじめ、ケアマネージャー等が当ステーションを認知され、それらが件数に繋がっているものと推察される。



関係機関の利用状況においては、相談支援事業が突出して多いが、これらは障害福祉サービスを活用する利用者様が多く見られるようになってきたからと思われる。居宅介護、就労継続 B 型の利用者様の増大が要因である。特に日中活動として就労継続 B 型事業所の割合が今後も増加する傾向にあると予想される。又、昨年度同様にデイケアの利用者様も多く見られる。これらは、以前から通所されている方が日中活動の場として習慣化され、介護保険適用の年齢となる為、介護保険自体を申請し、要支援 1、2 等の判定受給者が介護保険対応のデイサービスではなく、医療保険適用のデイケアを希望され通所されている事も要因の一因と思われる。又、これらも加齢と共にその利用者様に即した日中活動の場を担当のケアマネジャー、相談支援事業所の相談支援専門員と相談しながら進めていかなければならぬ。障害福祉サービスの利用者様は 1 つのサービスだけでなく複数のサービスを受けている場合も多く見られる為、それらのサービス内容や方向性などより、緊密な連携と、情報共有が必要になってくる。

2 平成 30 年度 目標についての取り組みと考察

(1) 医療機関とのスムーズな連携の統一と強化（導入・情報共有・地域移行・定着）

昨年度同様に担当 PSW を付けて連携の統一と強化を図るという目標においては課題もあった。担当者のレベルや、ケースによっては入院時から退院時に至るまでスムーズな連携を図れたケースもあるが、訪問看護の利用者様という情報が不十分で病棟内で把握されていなかったり、退院時におけるカンファレンスもなされずに導入に至ったケースもあった。

平成 30 年度において特別な関係のある医療機関においても「退院時共同指導加算」、「在宅患者緊急時等カンファレンス加算」等が算定できる様に改正されたが、それぞれの導入についても、医療機関と話し合い調整段階である。

全てをマニュアル化し周知徹底させる事は困難だが、入院時から退院を意識し、それぞれがケースに携わる事で必要な時期に必要なカンファレンス、支援方針の確認、退院前訪問の導入、振り返りなどにより利用者様により必要な支援がキメ細やかに提供できると思われる。

また、地域移行・定着という視点でも平成 30 年度は長期入院者様の訪問導入というケースは見受けられず物足りなさを感じた。地域定着においても利用者様が、1 年間において数回入退院を繰り返したり、地域生活を継続できずに入院に至るケースもあった。病状の悪化、在宅生活継続困難が故に入院に至る訳だが、早期介入し、関係機関と協力し、入院を防止できたケースもあったと思われる。特に地域生活における障害は訪問スタッフがより強く意識し、感じる部分でもある為、入院時においては病院サイドへアナウンスし、入院中において、改善、強化できる事は協力し取り組んでいく必要性があった。

(2) スタッフ間の連携を高め、利用者様への接遇への向上に努める（ミーティングの活用）

利用者様に対しての支援においては担当者の変更が昨年度以上に多く見られた事もあり、担当者レベルで利用時間の長短が多少なり見られたり、支援内容における引継ぎの部分、支援内容の疑問点を協議する事が不十分な面があった。スタッフ間の連携という面でもムラがあり、個々に出来ていたケースもあるが、疑問を抱えたままの開始というケースもあった。

基本的な利用時間においては開始時におけるアナウンス、導入後は必要に応じて時間の長短がある事は担当者から利用者様、新担当スタッフに申し送りをして行く必要がある。担当者変更における利用者様の反応は、担当が変わっても、スマイルリテとしての方針を基に携わっているという意識の強化をしていく、利用者様にも理解してもらう必要があると思われる。又、多岐にわたる利用者様の希望する事、支援においては訪問以外の社会資源も活用していく事でよりよいサービスが提供できるようにしていきたい。

連携、接遇どちらにも共通項として申し送りの方法を考えなければならない。朝の限られた時間において昨日の報告も重要だが、当日の動き、又、具体的に何をするかをミーティング時に伝達する事でお互いの業務に対する考え方や、利用者様への支援内容がより明確化されると考える。それらを勉強会等に生かす様にしたい。

(3) 医療機関、関係機関への広報活動（サテライトへいわの運用と活用）

焼津、藤枝方面も意識して、地域包括支援センター、健康福祉センター、医療機関（焼津病院、藤枝駿府病院）等に出向いて広報活動を実施した。静岡市内においても特に葵区内の地域包括支援センターへの訪問や、クリニックへの挨拶、パンフレットの郵送、指定相談支援事業所の連絡会議への参加等の広報活動を行った。

相談支援事業所からの相談や、利用希望など予想されたが、予想に反し2件の相談依頼に終わった。これらはヘルパー事業所等とは異なり、訪問看護業務がイメージしづらく計画に盛り込まれにくさもあるのかと思われる。

一方で地域包括支援センターからは比較的問い合わせがあり、訪問看護の依頼、相談があった。65才未満の利用者様でも地域包括支援センターからの相談があるのが特徴的で医療機関に繋げられず、医療に繋げる動きもタイアップしていくいかという相談もあった。

今後も、訪問看護利用においてイメージのしづらさという視点ではより、積極的に受け入れをする中で実践を通してスマイルリラの特徴を地域で深めていく様にしていきたい。又、各方面からの講義依頼に対応し、精神科に特化した訪問看護の特徴を紹介し、実務レベルでスマイルリラのコンセプト、取組みを発信する機会は多かったと思われる。

サテライトへいわにおいては、予想していた焼津、藤枝方面の利用者様がなく、実績を上げられなかった。しかし、サテライトがある事で訪問エリアを拡大し、より多くの利用者様へ訪問する事が期待できる。

(4) 各種勉強会、研修会への積極的参加と勉強会の実施

特に平成30年度における法改正に伴い、加算算定項目が増加した事で、それらに伴う勉強会を4月に実施した。又、各担当者において、所属している学会への参加、特に入院から地域への移行の勉強会へ積極的に参加し、静岡市訪問看護ステーション協議会主催の講義や研修会にも参加し、市内における各ステーションの課題や情報共有する機会を多く持つ事ができた。

また、後日伝達講習を実施し、他のスタッフにも情報伝達し、今後の支援の参考になった。部内においては13回の部内勉強会を実施した。更に今後は事例検討会の開催を意識していきたい。

3 平成 30 年度 目標の評価・総括

平成 30 年度を総括すると、実行できた部分と不十分な部分があった。研修会への積極的な参加や、伝達講習など通しての理解を深めていく事は昨年度以上に達成できたと思われる。

不十分な部分としては、スムーズな受け入れ、連携が今後も課題と思われる。退院がゴールではなく、スタートという認識をより発信していかなければならない。入院時から実施した事を継続的に退院後も継続支援し、利用者様の再入院を防止し、地域生活を継続できる様に訪問での視点を多くの人に理解してもらう様に努力していかなければならない。

利用者様において病状悪化の早期発見、早期介入、予防という取組みが各機関との連携、情報共有が必須な為、今後も継続的に力を注いでいきたい。

スタッフ間の連携では意識のズレを感じた年度でもあった。これらを是正する為に実践を介しての研修、事例検討など行いそれぞれの視点の理解や、又は新しい知識の獲得を図っていく必要がある。それに準じて関係機関に研修会の内容を伝達し、講義の依頼を行い、さらに専門知識の構築に努めたい。

上記を踏まえ下記に令和元年度の目標を掲げる。

4 令和元年度 目標および抱負

(1) 医療機関や関係機関とのスムーズな連携の統一化と強化

医療機関や関係機関と情報共有を密に行い、途切れのない支援に取り組む

(2) スタッフ間の連携を高め、利用者様への接遇に努める

支援場面の困りごとに早めに対処し、支援の行き詰まりを防ぐ。スタッフ全体の支援技術の向上を目指す

(3) 医療機関・関係機関・利用者様などへの広報活動を充実させる

訪問看護の具体的な活用方法を併設医療機関や関係機関に向けて発信する

(4) 各種勉強会・研修会への積極的参加と勉強会の実施

訪問看護に関する最新の制度や法令を学び、支援技術の向上に努める

日頃の支援で明らかになった話題に関連したテーマで勉強会を実施する

外部団体役職及び協力

〔医局〕

溝口 明範

静岡県医療審議会 委員
 静岡県精神科救急医療システム連絡調整委員会 委員長
 静岡市精神医療審査会 委員
 静岡市精神障害者保健福祉手帳及び自立支援医療費支給認定判定会 委員
 静岡市認知症対策推進協議会 委員
 公益社団法人日本精神科病院協会 監事
 静岡県精神科病院協会 会長
 静岡県精神保健福祉協会 副会長
 公益社団法人静岡県病院協会 中部支部理事
 更正保護法人静岡県更正保護協会 理事
 更正保護法人少年の家 理事長
 一般財団法人社会保険協会静岡支部 副支部長
 一般財団法人静岡県社会保険協会 理事
 全国健康保険協会静岡支部 保険給付審査医師
 静岡保護司選考会 委員
 全国精神医療審査会連絡協議会 会員
 静岡南警察署被害者支援連絡協議会 副会長
 静岡医療観察制度運営連絡協議会 委員

寺田 修

静岡市精神保健福祉審議会 委員
 静岡市障害程度区分認定等審査会 委員
 静岡市障害者自立支援協議会地域移行支援部会 委員

西村 勉

静岡産業保険総合支援センター 相談員
 国民年金および特別障害給付金 障害認定審査医員
 高齢者の医療の確保に関する法律による障害認定審査委員
 静岡市保健所 精神保健相談医
 静岡市役所保健室 精神保健カウンセラー
 静岡市教育委員会 精神保健カウンセラー
 静岡市職員健康審査会 委員
 静岡県立大学 非常勤講師
 常葉学園大学教育学部 非常勤講師
 静岡福祉大学 非常勤講師
 静岡福祉大学 学校医
 N P O 法人ウイングハート 理事
 N P O 法人てのひら 理事

高橋 哲
最高裁判所診療所 非常勤医師

青島 多津子
静岡市保健所 精神保健相談医
静岡地方裁判所 精神保健審判員
法務省保護局 保護観察官高等科研修講師
静岡保護観察所アドバイザリースタッフ
江戸川大学 非常勤講師
国立きぬ川学院 非常勤医師

高橋 一平
弘前大学C O I 抱点アドバイザリーボード 委員
日本年金機構静岡年金事務所 産業医
弘前大学学部長講師

[看護部]
大石 和樹
静岡市障害者自立支援協議会地域移行支援部会 委員

[社会復帰部]
望月 信吾
静岡県精神保健福祉士協会 理事
静岡市介護保険認定審査会 委員
静岡市障害者自立支援協議会地域移行支援部会 委員
静岡市精神障害者地域移行支援ワーキンググループ長
静岡市立静岡看護専門学校 非常勤講師

田中 幸子
静岡県精神保健福祉士協会 中部ブロック協力員
静岡県精神保健福祉士協会 関係団体連携委員

山本 晃弘
しづおか精神障害者スポーツ推進協議会 地区代表
静岡県作業療法士会 広報部員
静岡県作業療法士会 講師
静岡県作業療法士会 地域活動推進部精神障害ワーキンググループ会議 委員
静岡県自立支援協議会地域移行部会研修会 委員
静岡県自立支援協議会地域移行部会ピアワーキンググループ 委員
静岡市障害者自立支援協議会地域移行支援部会 委員

姉崎 瑞希
静岡県作業療法士会 広報部員

中條 加奈子
静岡県作業療法士会 学術部員

[事務部]
溝口 直毅
社会福祉法人明光会 評議員

井口 啓
静岡県精神科病院協会 事務局長
静岡県精神保健福祉協会 運営委員

[なごやか]
奥村 敦毅
静岡市社会福祉協議会 評議員
NPO 法人てのひら 理事

渡邊 博美
静岡市障害者自立支援協議会地域生活支援部会 委員
静岡市障害者自立支援協議会地域移行支援部会ワーキンググループ 委員
静岡市障害者相談支援事務局連絡調整会議 委員

石川 裕己
しづおか精神障害者スポーツ推進協議会 理事
静岡市介護保険認定審査会 委員
静岡県精神保健福祉士協会 中部ブロック協力員

朝日 友紀
静岡市日常生活自立支援事業契約締結審査会 委員
静岡市障害者自立支援協議会地域移行支援部会 委員
静岡市障害者自立支援協議会地域移行支援部会ワーキンググループ 委員
静岡市障害者相談支援事務局連絡調整会議 委員
静岡県精神医療審査会 委員

金丸 充良
静岡市障害者自立支援協議会地域生活支援部会 委員
静岡市障害者自立支援協議会地域移行支援部会ワーキンググループ 委員
静岡市障害者自立支援協議会地域生活支援部会ヘルパープロジェクト 委員
こころのバリアフリープロモーターフォローアップ講座 委員